

教科等	授業改善の視点（担当）	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	①明確な「めあて」と「振り返り・まとめ」の時間の充実・徹底【学校経営方針】  ②学習者用端末を活用した学習の充実【ICT 機器の活用】	①アンケート項目「すすんで学習している」という項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が91%であった。また、「授業中、集中して取り組んでいる」という項目に対して肯定的な回答は92%であった。このことから、主体的な学習する態度は身に付いていると考えられる。 ②アンケート項目「授業は分かりやすい」で否定的な回答をしている児童が10%いることから、読むこと・書くことに苦手意識をもつ児童がおり、個別指導が必要であると考えられる。	①学習のねらいを明示し、学習で分かったこと・できたことを全体で発表したり、ペアで交流したりする。また、ノートやワークシート、ICT機器を活用して言葉での振り返りを行うようにする。  ②2学期より短作文指導を継続的に行い、書くことの習慣付けを図る。教師がモデル文を提示したり、ICT機器を用いて児童の作成物を共有・比較したりできるようにして、授業アンケートの同項目の「とてもそう思う」への回答率の3ポイント上昇を目指す。
算数	①東京ベーシックドリルの確実な実施と活用【学校経営方針】  ②学習者用端末を活用した学習の充実【ICT 機器の活用】	①アンケート項目「すすんで学習している」という項目に対して「とてもそう思う」と回答した児童は67%、「そう思う」と回答した児童が26%であった。「授業は分かりやすい」という項目では、67%の児童が「そう思う」と回答している。このことから、繰り返しの問題解決を通して「できた」を実感できる学習を重ねる必要がある。 ②授業では、自分の考えたことを図で表現したり、友達に伝えたりする活動を苦手と感じている児童も少なくない。自分の考えや思いの伝え方が分からず苦手意識をもっている児童が多いと考えられる。	①2学期以降に東京ベーシックドリルの活用を始める。まずは、児童の実態を把握し、ベーシックドリルの活用を進める。振り返りを通し、学習を苦手と感じている児童の抵抗感を低くし、「できた」を実感しながら意欲的に取り組むことができるようにする。  ②式や図、言葉で表現できる児童の模範を示すことで、表現の仕方を学ばせていく。また、多く意見を知ることができるようICT機器を活用した共有を行い、自分の考えを深めたり、考えを式や図を活用して表現したりすることができるようにする。
生活	①明確な「めあて」と「振り返り・まとめ」の時間の充実・徹底【学校経営方針】  ②学習者用端末を活用した学習の充実【ICT 機器の活用】	①めあてをたて、振り返りを行うことで、身近な人々や自然への気付きを感じることができた。身近な人々や自然、社会と自分自身とのつながりを考えたり、気付いたことを自分の生き方に活かそうとしたりする態度を養っていく必要がある。  ②写真や動画の機能を活用することで自分たちの学びを振り返ったり、友達同士で共有したりすることができた。気付きを生かして学びを深めていく必要がある。	①活動のねらいを達成できたと実感できるように、観察カードやワークシート、ICT機器を活用して振り返りを行う。グループや全体での交流を通して視点を広げたり考えを深めたりして、自分自身とのつながりを感じさせ、生き方に活かそうとする態度に価値付けを行っていく。 ②ICT機器を活用してワークシートや観察カードを撮影・保存し、いつでも見返すことができるようにする。植物の観察など長期にわたって振り返りをするすることで学びを深められるようにする。また、ICT機器を活用して季節の生き物の写真を撮り、友達同士で交流する活動を取り入れ、協働的な学びを実現する。
音楽	①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【学校経営方針】  ②学習者用端末を活用した学習の充実【ICT 機器の活用】	①アンケート項目「すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が93%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。 ②アンケート項目「授業はわかりやすい」という質問項目に対して「あまりそう思わない」「そう思わない」の回答をした児童が11%おり、特に楽器を正しい奏法で演奏することに難しさを感じていると考えられる。	①感覚統合が促進されるような常時活動や、体を動かす活動を取り入れることで、音楽的なコミュニケーション能力を高め、友達と一緒に表現する楽しさを感じ取ることができるように進めていく。  ②実態に即した教材を選ぶことで学習意欲を喚起し、ICT機器を活用して、スモールステップの課題をくり返し練習させることで技能の習熟を図る。ゴールの姿をイメージさせ、本時の学習のできるようになったことを自覚させる。

<p>図画 工作</p>	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【学校経営方針】</p> <p>②学習者用端末を活用した振り返り活動、相互鑑賞活動の充実【ICT機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が95%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>②アンケート項目「授業中、集中して取り組んでいる」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が92%であった。このことからほとんどの児童が授業に集中して参加していると考えられる。</p>	<p>①<u>絵の具やクレヨンの他に、素材の形や質感を生かした造形遊びなど、表し方や用具・材料についての経験を充実させ、児童が図画工作を学ぶ楽しさを実感しながらすすめられるようにする。</u></p> <p>②自分の作品について、ICT機器を活用して学習のめあてに対する成果や課題を捉え、振り返りができるようにする。<u>友達の作品についてもICT機器を活用することで互いに鑑賞できるようにする。</u></p>
<p>体育</p>	<p>①基礎体力の向上、体育的活動の充実【学校経営方針】</p> <p>②振り返り活動の充実【ICT機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」に対して「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童は94%であり、日常的に体を動かすことへの意識がとて高い。</p> <p>②アンケート項目「授業は分かりやすい」に対して「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童は95%であり、運動や活動をふり返る学習を充実させて、児童全員が「分かった」と実感する学習を重ねる必要がある。</p>	<p>①主運動につながる容易な運動やゲーム形式の楽しい活動を取り入れたり、休み時間等を活用したなわとび活動をしたりし、基礎体力の向上を図る。また、児童の運動への意欲を高め、家庭や休み時間等に取り組める運動の具体例を示す。</p> <p>②自分や友達の運動について、ワークシートやICT機器を活用して学習のめあてに対する成果や課題を捉え、振り返りができるようにし、<u>2学期以降の授業アンケートの同項目に対する「とてもそう思う」回答ポイント上昇を目指す。</u></p>
<p>道徳</p>	<p>①自己肯定感を高める言葉かけの充実【学校経営方針】</p> <p>②学習者用端末を活用した、振り返り活動の充実【ICT機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目「自分にはよいところはあるか」に対して「とてもそう思う」「そう思う」と肯定的回答をした児童は94%であり、高い傾向にある。</p> <p>②自分の生活を振り返る際の活動で、ペアや全体の場で経験や今後について発表する場を設けているが、考えを表出できない児童が一定数いる。</p>	<p>①<u>友達の考えを聞いたり共有したりする場を多く設定する。その際、自分の考えだけでなく他者の考えを認め、尊重できるような言葉かけを相互に行えるような授業展開にする。アンケートの肯定的回答のさらなる上昇を目指す。</u></p> <p>②ワークシートに自分の考えを記述するだけでなく、<u>ICT機器を用いて考えを共有できるようにする。</u></p>